

實用中獸醫葯物學

李德成 編著



实用中兽医药物学

李德成 编著

陕西科学技术出版社

实用中兽医药理学

李德成 编著

陕西科学技术出版社出版发行

(西安北大街131号)

新华书店经销 国营五二三厂印刷

787×1092毫米 32开本 16.25印张 插图2 34万字

1989年10月第1版 1989年10月第1次印刷

印数: 1—2,000

ISBN 7-5369-0311-1/R·89

定价: 6.50元

写在前面的话

中兽医学在我国历史悠久，~~是我国畜牧业的一个重要组成部分~~是我国畜牧业的一个重要组成部分。整理和发扬兽医中药学，对发展畜牧兽医事业有极其重要的意义。

我幼承家传，从事中兽医工作已五十余年，在不断学习和临床实践中积累了一些经验和体会，编写成《实用中兽医药理学》一书，为祖国的现代化建设作点贡献。

本书分总论、各论两大部分。总论部分扼要叙述了中药一般知识和方剂配伍；各论部分按药物的性质与作用，分类介绍了二百八十四种中兽医常用药物。对每种药物从性味归经、功效、主治、应用、用量、禁忌、临床体会七个方面进行了阐述，其中功效和应用是本书介绍的重点，并引用了历代部分汤头和自拟临床经验方剂。在叙述上，本着不求其全，而求其实用，做到切合实际，简明扼要，通俗易懂。可供从事畜牧兽医工作的同志参考。

在编写过程中，曾得到省畜牧兽医总站、汉中地区农牧局、汉中地区畜牧兽医中心站、汉中市农牧局、汉中市家畜病院等有关领导同志的大力支持和帮助；西南农业大学冯昌荣副教授、西北农业大学扈文杰副教授、汉中市畜牧兽医站黎贵祥同志对原稿进行了审阅，在此一并致谢。

李德成

一九八八年元月，于陕西省汉中市家畜病院

目 录

总 论

第一章 兽医中药简介

..... (1)

一、中药的性能

..... (1)

二、升降浮沉 ... (3)

三、归经 (4)

第二章 药物的配伍

与举例 (6)

一、药物的配伍

..... (6)

二、配伍的举例 ... (8)

三、用药禁忌 ... (10)

四、中药治病的

理论基础和

原则 (12)

各 论

第一章 清热药 .. (14)

一、清热泻火药

..... (15)

石膏..... (15)

知母..... (18)

栀子..... (21)

玄参..... (23)

黄连..... (25)

黄芩..... (28)

黄柏..... (31)

龙胆草..... (34)

苦参..... (37)

秦皮..... (39)

胡黄连..... (40)

决明子..... (42)

青箱子..... (43)

密蒙花..... (45)

谷精草..... (46)

夜明砂..... (47)

夏枯草..... (48)

竹叶..... (49)

芦根..... (52)

穿心莲..... (53)

二、清热凉血药

- (55)
- 犀角 附：水牛角
..... (55)
- 生地黄..... (57)
- 牡丹皮..... (60)
- 地骨皮..... (62)
- 白头翁..... (64)
- 马齿苋..... (65)
- 白茅根..... (67)
- 银柴胡..... (69)

三、清热解毒药

- (70)
- 金银花 附：忍冬
藤..... (70)
- 连翘..... (73)
- 蒲公英..... (76)
- 紫花地丁..... (78)
- 板蓝根 附：大青
叶、青黛
..... (79)
- 射干..... (82)
- 山豆根..... (83)
- 马勃..... (84)
- 土茯苓..... (85)
- 黄药子..... (87)
- 白药子..... (88)

第二章 解表药 ... (91)

一、发散风寒药

- (92)
- 麻黄..... (92)
- 桂枝..... (94)
- 细辛..... (96)
- 荆芥..... (98)
- 紫苏..... (100)
- 防风..... (102)
- 藁本..... (104)
- 白芷..... (106)
- 辛夷花..... (107)
- 香薷草..... (108)
- 葱白..... (109)
- 生姜..... (111)

二、发散风热药

- (113)
- 柴胡..... (113)
- 葛根..... (116)
- 升麻..... (117)
- 淡豆豉..... (120)
- 薄荷..... (121)
- 桑叶 附：桑枝... (123)
- 菊花 附：野菊花
..... (125)
- 牛蒡子..... (127)
- 蔓荆子..... (129)
- 木贼..... (131)
- 鹅不食草..... (131)

第三章 祛寒药 … (133)

附子…………… (133)

肉桂…………… (137)

干姜…………… (139)

吴茱萸…………… (140)

小茴香…………… (142)

花椒…………… (143)

艾叶…………… (145)

第四章 祛湿药 … (147)

一、化湿健脾药

…………… (147)

苍术…………… (148)

木瓜…………… (150)

薏苡仁…………… (152)

白扁豆…………… (154)

藿香…………… (155)

草豆蔻…………… (157)

二、渗湿利水药

…………… (158)

茯苓…………… (158)

猪苓…………… (161)

泽泻…………… (162)

防己…………… (164)

茵陈…………… (166)

木通…………… (168)

车前子…………… (171)

萹蓄草…………… (173)

瞿麦…………… (174)

草薢…………… (175)

海金沙…………… (176)

滑石…………… (177)

石萆…………… (178)

地肤子…………… (181)

灯芯草…………… (182)

通草…………… (183)

冬瓜皮…………… (184)

金钱草…………… (185)

三、逐水峻下药

…………… (187)

牵牛子…………… (187)

大戟…………… (190)

芫花…………… (191)

甘遂…………… (192)

续随子…………… (193)

第五章 祛风湿药 … (197)

羌活…………… (198)

独活…………… (199)

秦艽…………… (201)

桑寄生…………… (204)

威灵仙…………… (205)

五加皮…………… (207)

海桐皮…………… (209)

乌梢蛇…………… (210)

虎骨…………… (211)

伸筋草…………… (212)

筋骨草…………… (213)

第六章 平肝熄风药

- (215)
- 羚羊角..... (215)
- 钩藤..... (217)
- 全蝎..... (218)
- 蜈蚣..... (219)
- 蝉蜕..... (220)
- 僵蚕..... (221)
- 天麻..... (223)
- 地龙..... (224)
- 代赭石..... (226)

第七章 开窍药 ... (230)

- 石菖蒲..... (230)
- 麝香..... (232)
- 冰片..... (234)
- 樟脑..... (236)

第八章 安神药 ... (238)

- 朱砂..... (238)
- 琥珀..... (240)
- 石决明..... (241)
- 酸枣仁..... (242)
- 柏子仁..... (243)
- 远志..... (244)

第九章 化痰止咳药

- (247)
- 一、清化热痰药
- (247)
- 瓜蒌..... (248)

- 贝母..... (250)
- 天竺黄..... (253)
- 青礞石..... (254)
- 牛黄..... (255)
- 葶苈子..... (256)
- 竹茹 附：竹沥... (257)
- 昆布..... (259)

二、温化寒痰药 ... (260)

- 半夏..... (260)
- 天南星..... (263)
- 白芥子..... (264)
- 桔梗..... (265)
- 白附子..... (267)
- 皂角..... (269)

三、止嗽平喘药

- (270)
- 杏仁..... (270)
- 紫菀..... (272)
- 款冬花..... (274)
- 百部..... (275)
- 莱菔子..... (276)
- 前胡..... (278)
- 马兜铃..... (280)
- 白前..... (281)
- 桑白皮..... (282)
- 枇杷叶..... (284)
- 天花粉..... (285)
- 旋复花..... (286)

第十章 泻下药 … (289)

一、攻下药 … (289)

大黄 … (290)

芒硝 附：玄明粉
…………… (296)

番泻叶 … (298)

芦荟 … (298)

二、润下药 … (300)

火麻仁 … (300)

郁李仁 … (302)

黑芝麻 … (303)

蜂蜜 … (305)

第十一章 理气药

…………… (307)

香附 … (308)

木香 … (310)

橘皮 附：橘核、
橘叶 … (311)

青皮 … (314)

厚朴 … (316)

枳实 附：枳壳 … (318)

大腹皮 … (320)

砂仁 … (322)

白豆蔻 … (323)

薤白 … (325)

第十二章 理血药

…………… (327)

一、行血药 … (327)

丹参 … (328)

赤芍 … (330)

川芎 … (331)

郁金 … (334)

延胡索 … (337)

姜黄 … (338)

乳香 … (340)

没药 … (341)

血竭 … (343)

牛膝 … (344)

桃仁 … (346)

红花 … (347)

五灵脂 … (349)

蒲黄 … (350)

莪术 … (351)

三棱 … (353)

穿山甲 … (354)

地鳖虫 … (355)

王不留行 … (356)

漏芦 … (357)

益母草 附：茺蔚
子 … (358)

自然铜 … (360)

二、止血药 … (360)

三七 … (361)

白芨 … (363)

侧柏叶 … (364)

茜草 … (366)

地榆·····	(367)
槐花 附：槐角··	(369)
乌贼骨·····	(371)
藕节·····	(372)
大蓟 附：小蓟··	(373)
棕榈·····	(374)
血余炭·····	(375)
仙鹤草·····	(376)

第十三章 补养药

·····	(378)
一、补气药·····	(379)
党参 附：人参··	(379)
黄芪·····	(382)
白术·····	(386)
山药·····	(387)
甘草·····	(390)
大枣·····	(393)
二、助阳药·····	(395)
肉苁蓉·····	(395)
潼蒺藜 附：刺蒺藜·····	(396)
菟丝子·····	(398)
巴戟天·····	(399)
杜仲·····	(400)
续断·····	(402)
狗脊·····	(403)
补骨脂(破故纸)··	(404)
骨碎补·····	(405)

蛤蚧·····	(406)
益智仁·····	(407)
淫羊藿·····	(409)
葫芦巴·····	(410)
三、补血药·····	(411)
当归·····	(412)
熟地·····	(416)
何首乌·····	(418)
阿胶·····	(420)
四、养阴药·····	(422)
沙参·····	(422)
麦门冬·····	(424)
天门冬·····	(426)
黄精·····	(427)
百合·····	(429)
白芍·····	(430)
枸杞子·····	(433)
女贞子·····	(434)
玉竹·····	(436)
石斛·····	(437)

第十四章 消化药

·····	(440)
山楂·····	(440)
麦芽·····	(442)
神曲·····	(443)
谷芽·····	(444)
鸡内金·····	(445)

第十五章 固涩药

.....	(447)
一、敛汗药.....	(447)
浮小麦.....	(448)
牡蛎.....	(448)
龙骨.....	(450)
五味子.....	(452)

二、固精缩尿

药.....	(454)
山茱萸.....	(454)
金樱子.....	(456)
芡实.....	(457)
覆盆子.....	(458)

三、止泻药..... (459)

诃子.....	(459)
乌梅.....	(461)
赤石脂.....	(463)
石榴皮.....	(464)
莲子 附：莲须、 莲心.....	(465)
肉豆蔻.....	(466)

椿根皮 附：椿子	(468)
-------------------	-------

第十六章 驱虫药

.....	(470)
使君子.....	(470)
槟榔.....	(471)
苦楝子.....	(473)
苦楝皮.....	(475)

鹤虱.....	(476)
雷丸.....	(477)
榧子.....	(478)
贯众.....	(479)
大蒜.....	(480)

第十七章 涌吐药

.....	(482)
甜瓜蒂 附：甜瓜 子.....	(482)
藜芦.....	(483)
食盐.....	(485)

第十八章 外用 药

.....	(487)
硫磺.....	(487)
雄黄.....	(489)
水银.....	(490)
轻粉.....	(491)
蛇床子.....	(492)
硼砂.....	(493)
白矾.....	(494)
炉甘石.....	(496)
大风子.....	(497)
儿茶.....	(498)
象皮.....	(499)
草乌 附：川乌.....	(500)
松节.....	(501)

药名索引 (503)

总 论

第一章 兽医中药简介

中国医药学是一个伟大的宝库，中兽医药物是这个宝库中重要的一部分。中兽医药物的使用，是以中兽医理论体系作指导的，这里简单介绍一下中兽医药物的有关理论。

一、中药的性能

中药的性能，包括四气、五味、升降浮沉及归经等。

中药的性味、功能等理论知识，是我国劳动人民几千年来在防治疾病的实践过程中，加以概括和总结出来的。

(一) 四气

“气”指药物的性质。“四气”又称“四性”，即寒、热、温、凉四种不同的药性。寒与热在性质上是对立的，凉则接近于寒而在程度上次于寒，温接近于热而在程度上次于热。这些药物的性能，是人们根据药物作用于机体所发生的不同反应和治疗效果而逐步认识的。例如用黄连、牡丹皮治疗热性病能起到清热凉血的作用，因为黄连的作用较牡丹皮强，所以认定黄连属于寒性，牡丹皮属于凉性。又如用附

子、干姜治疗寒性病能起到祛寒温经的作用，因为干姜的作用较附子弱，所以认定干姜属于热性，附子属于大热性。此外，还有一部分药物的性质，既不属寒凉也不属温热，作用比较缓和，如茯苓、猪苓、通草、灯草，称为平性药。药物的性质虽然有寒、凉、平、温、热“五气”，而习惯上仍称为“四气”。

总的来说，凡是寒性、凉性的药物，大都具有清热、泻火、解毒、凉血等作用；热性、温性的药物，大都具有散寒、温里、助阳、通络等作用；平性的药物，则寒证或热证都可配合应用。热证用寒凉药，寒证用温热药，是中兽医治疗用药的原则。对于寒热夹杂的病证，可将与病情相适应的热性药与寒性药适当配伍应用。

（二）五味

药味是由人的味觉来判断的。药物有酸、苦、甘、辛、咸五种不同的药味，此外还有淡味和涩味，因淡近于甘，涩近于酸，习惯上仍称为“五味”。五味也是药物作用的标志，不同的味有不同的作用。辛、甘、淡属阳；酸、苦、咸属阴。综合历代用药的经验，其作用如下：

酸：酸味药物有收敛、固涩、生津、止渴的作用，一般多用于治疗虚汗、口渴、泄泻等证，如五味子、乌梅、山茱萸等。

苦：苦味药物有清热、泻火、燥湿、降泄的作用，一般适用于热结便秘、湿热泻痢等证，如黄连、大黄、黄柏等。

甘：甘味药物有补益、和中、滋养气血的作用，一般多用于治疗体虚衰弱，气血不足，脾胃不和等证，如党参、熟地、甘草等。

辛：辛味药物有疏散、行气、解表、发汗的作用，一般

用于治疗外感风寒等表证，如防风、荆芥、薄荷等。

咸：咸味药物有软坚、润下、通便、散结的作用，一般多用于治疗瘰癧、痰核、症瘕、热结便秘等证，如芒硝、牡蛎、食盐等。

淡：淡味药物有渗湿、利水、利尿的作用，一般用于治疗水肿、小便不利等证、如茯苓、猪苓、通草等。

涩：涩味药物有涩肠、止泻、固精的作用，一般用于治疗虚汗、泄泻、精滑、尿频及出血等证，如龙骨、牡蛎、赤石脂等。

性和味必须综合看待。例如两种药物都是寒性，若一是苦寒，一是辛寒，两者的作用就有差异。如两种药物都是甘味，若一是甘寒，一是甘温，其作用也不一样。所以，不能把性与味孤立起来看待。性与味显示了药物的部分性能，也显示出有些药物的共性。只有认识和掌握每一药物的全部性能，包括性味相同药物之间尚有差异的特性，才能合理、安全、有效地使用。

二、升降浮沉

升、降、浮、沉，是指药物作用于机体有四种不同的趋向。各种疾病在病机和证候方面常常表现出向上（如呕吐、喘嗽）、向下（如泻痢、崩漏、脱肛）、向内（如腹胀满闷、二便秘结）、向外（如阳气浮越、发热、汗出）等不同。因此，应针对病情选用适当的药物，使机体趋向上下内外的功能协调而恢复正常。

升和降、浮和沉都是相对的，升表示上行，降表示下

行，浮表示发散，沉表示重镇泄利。凡是花、叶、枝以及体质轻飘的药物，都为升浮上行向外之品，大抵具有升阳、解表、宣通、发汗、祛风、散寒、涌吐、开窍等作用；凡是种子、果实、矿石、动物贝壳以及体质重坠的药物，都为沉降下行向内之品，具有降泄、渗利、镇静、安神、潜阳、消导、收敛、平喘等作用。但以上情况也不是绝对的，有少数药物升降浮沉的性能不明显或存在着两种趋向，如麻黄既能发汗又能平喘、利水；川芎既“上行头目”又“下行血海”；“百花齐上、唯旋覆花独下”；苍耳子主升，紫苏子主降；诸叶皆升、枇杷叶独降。若按药味属性分类，则又可归纳为辛、甘、淡主升，浮为阳；酸、苦、咸主沉，降为阴。

此外，药物升降浮沉的性能常受加工炮制的影响；而在复方中，一种药物的作用趋向还可能受到其它药物的制约，用药时应加以注意。

三、归 经

归经就是指药物对于机体某脏、某腑、某经络发生的病变有明显的或特殊的适应或选择性。例如同属寒性药物，虽然都具有清热作用，但其作用范围，或偏于清肺热，或偏于清肝热，各有所归。再如同一补药也有补肺、补脾、补肾等不同。

临床上多以五种颜色辨归经。例如：青皮、柴胡为青色，入肝，能疏肝解郁，所以归于肝经；黄连、栀子为赤色，入心，能清心解郁火，所以归于心经；白术、甘草为黄色，入脾，能健脾燥湿和中，所以归于脾经；桔梗、贝母为

白色，入肺，能止嗽化痰，所以归于肺经；熟地、玄参为黑色，入肾，能滋阴壮水，所以归于肾经等等。归经理论是从疗效观察中总结出来的。由于一种药物可以治疗几种疾病，因此归经也不限于一经，常常一种药物可以兼归数经。

在应用药物的时候如果只掌握药物的归经，而忽略了四气、五味、升降浮沉等性能，是不够全面的。因为某一脏腑经络发生病变，可能有的属寒，有的属热，有的属虚，有的属实，有的属表，有的属里，不可只注意归经，而应当随证配伍。同归一经的药物。其作用有温、清、补、泻的不同。如肺病咳嗽，虽然黄芩、百合、葶苈子、生姜都能归肺经，但是作用却不一样，黄芩主要清肺热，百合补肺虚，葶苈子泻肺实，生姜温肺寒，如此等等。

第二章 药物的配伍与举例

按照病情的需要和药物的性能，有选择地将两种以上的药物合在一起应用，叫做配伍。把单味药物通过配伍组成方剂，可以相互促进或制约，增强疗效，减低毒性和副作用，以适应比较复杂的病症。

一、药物的配伍

掌握药物的“四气”、“五味”，是正确应用配伍中药的依据。例如生姜是辛温性药物，具有发汗散寒的作用；大黄是苦寒性药物，具有泻下、通便、消滞等功能。

在应用过程中，由于药与药之间可能出现某些相互作用而使其原有性能有所改变，则必须予以控制。实践证明，某些药可以合用，某些药不能合用。因此，可将药物配伍关系归纳为七种情况，叫做药性“七情”。

（一）单行

就是指用单味药治病。病情比较单纯，选用一种针对性强的药物即能获得疗效。如“清金散”，单用一味黄芩，治疗轻度的肺热咳血；一味马齿苋治疗痢疾；一味人参大补元气，治疗虚脱，叫“独参汤”；以及许多行之有效的“单方”等。